安全科学習指導案

授業者　印藤　秀泰

「じしんがおきたら」
～自助の方策を考える～

１．学年・組・校時（場所）　２年南組

２．目指す子供の姿

本校では、安全教育を「命を守るための学習」と捉え、安全科の学びを積み重ねてきた。低学年では、その第一歩として「自助」、つまり自分で自分の命を守ろうとする力を身につけてほしい。

自助ができている状態とは、「自分で、何が危ないのかを理解し、事前に備え、状況に応じて判断・行動できる状態」である。それまでには、３つの段階がある。一つ目は、「無知」。この状態では、そもそも安全に関わる事だとわかっていない。知識が全くない状態だ。二つ目は、「知識に満足している」状態。安全に関わる事だと知識として持っている。しかし、知っていることに満足している状態だ。三つ目は、「現実に気づく」状態だ。知識を持っているだけでは命を守ることができないことに気づいている状態だ。この３つの段階を経て、何が危ないからどんな行動をするのか判断できる状態、「自助」ができる状態を目指したい。



本校の２年生は、１学期に「通学路の安全」と「学校の安全設備」を学んできた。その中で見えたのは、多くの子供たちが、二つ目の段階「知識で満足している」状態にいるということだ。これまでの安全科の授業の中で、安全に関わるものの知識は身につけているが、なぜそれが安全に関わるのかを理解していない。例えば、カーブミラーが安全に関わるものとは知っているが、その曲がり角になぜカーブミラーがあるのかは知らない。さすまたが安全設備であるとは知っているが、どんな時に、どのように使うかは知らない様子が見られた。

そこで、本単元では、災害安全の中でも校内での地震のシチュエーションに目を向け、何が危なくて、どのような行動をするべきなのか学んでほしい。

３．本単元における学びを紡いでいく子供の姿

上記の目指す子供の姿を育むために、次のような過程を通して学びを紡いでいくことが重要であると考える。

まず、これまでの地震に関する知識を再確認する。９月には、地震の避難訓練を行なっている。その経験を想起し、地震の時に行うべき行動を確認する。これにより、子供たちが二つ目の段階「知識に満足している」状態までにあることを確認する。

次に、地震が起こった際、何が危ないかを知る。地震が起こった時に、何が危ないのかに気づき、自分たちの考えていた行動が実際に起こった時にはいかに難しいことなのかを感じるだろう。そ

れを感じることで、三つ目の段階、「現実に気づく」に至る。

最後に、学校のさまざまな場面での地震を想定し、取るべき行動を考える。その前に、地震が起こった時に何が危ないのかを確認していることで、子供たちは、普段生活している場所で地震が起こった際、何が危険なのか見る視点が養われているだろう。その視点で見たときに、どのように行動すると良いのか、考え、判断しようとする。これにより、四つ目の段階、「判断と行動」ができる状態になっていってほしい。

このように、地震についてのこれまでになかった視点、「何が危ないのか」に気づくことで、状況に合わせた行動を考えられるようになることが、本時における「学びを紡いでいく子供の姿」である。

４．本単元で扱う材

（教材について）

本時で扱う教材は、「地震」である。日本では、多くの地震が起こっている。今後数年のうちに、南海トラフ地震が起こるとも言われている。日本に住んでいる限り、地震の対策は必要不可欠である。

同時に、日本人は地震に対して慣れすぎている部分もあるのではないだろうか。義務教育課程を通して、これだけ地震の避難訓練を行なっているにもかかわらず、地震が起こっても、頭を守らない大人は多いのではないだろうか。平然と歩き続ける人も、少なくないだろう。

想定外のことが起こるのが、災害である。もし起こった時に、後悔しないために大切なことは、マニュアル通りに動く練習ではない。何が危険で、どのように動くべきなのか、状況に合わせて判断する能力を鍛えることだ。この教材を通して、地震の何が危ないのかを知って、行動の選択肢を持てるようになってほしい。

（材について）

本単元を貫く材は、「地震が起こったらどう動くか」になるだろう。地震が起こった際の基本的な行動は、「その場で小さくなり、頭を守ること」だ。しかし、それは現在いる場所の状況によって変わる。大切なのは、「何のために、頭を守るのか」を理解して行動することだ。例えば、廊下にいるとき、周りに机がないのでその場でしゃがんで頭を守る。これでは不十分だ。正しくは、「蛍光灯の位置や窓ガラス、棚から離れてしゃがみ、頭を守る」だろう。なぜ頭を守るのかを理解していれば、どこにいても瞬時に判断し、より安全に行動することができる。

本単元ではさまざまな場面での地震を想定する中で、「どう動くか」を繰り返し考えることになる。どう動くべきか判断するための材料は、教師が本単元で学んでほしいと思っている、「何が危険か」という視点になる。自分の行動が正しかったのかどうかを、「〇〇があって危ないから…」と考えることができれば、「他の場所でも…」と単元を通して考えることができるのではないだろうか。

５．評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地震が起こった際、何が危ないのかを理解して、ワークシートに書いている。	地震が起こった際にどのように行動するべきなのか判断して、行動、またはワークシートに書いている。	さまざまな場面や危険を想定して自分の行動を振り返っている。

６．単元計画

次	時	学　習　内　容	子供の姿 予想される子供の姿
1	1	・地震が起こった時の行動を想起する。 ・地震が起こった時何が危険かを考える。	・机の下に隠れると習ったよ。 ・頭を隠すといいと学んだよ。 ・物が落ちるのが危ないんだな。 ・土砂崩れも危ないみたいだ。
	2	自然観察園や図書館で地震避難訓練を行う。	・自然観察園では木が倒れてくるかもしれない。 ・図書館は本がたくさんあって危ないな ・机がない場所ではどうすればいいのだろう
	3本時	・教室における様々な時間帯での地震避難訓練を行う。 ・それぞれの場所での訓練を思い出し、地震が起こった時に大切なことをまとめる。	・教室でも場所によってやることは変わるんだな。 ・何が危ないか見分けることが大切なんだな。

７．子供が学びを紡いでいく過程〈他者との関わりによる材の変容に着目して〉

第一時ではまず、これまでの学びを想起することから始まる。「地震が起こったらどうする？」と問いかけることで、子供たちはこれまでの自分の知識をたくさん出すだろう。たくさん出てきた中で、「まとめると？」と問うことで、「頭を守ることが大切だ」と言う考えに収束していく。さらに、「何から頭を守るの？」と問うことで、なぜ頭を守ると言う行動をするのかに視点を動かしてほしい。そうすることで、何人かは、なぜ頭を守るのかを考えたことがなかったことに気づくのではないか。

第一時では、その後実際に地震があった際の映像をみる。東日本大震災があった際の、テレビ局や、建物の中、道路の動画だ。「何が危なかった？」と問いかけると、子供たちはそれぞれの経験からさまざまな視点で危険を出すだろう。それらを共有することで、地震が起こったらさまざまな危険があることを知る。今後の活動で場所を見る視点を持ってほしい。

第二時では、学校のさまざまな場所で地震が起こったと想定して実際に行動してみる。場所は２年生の子供たちが普段使うことがある場所にする。子供達に聞くと、自然観察園や図書館、多目的ホール、ふれあいギャラリーなどの、休み時間や授業で使う場所が出てくるだろう。それぞ

れの場所で地震を想定する中で、「なんでその行動をしたの？」と聞いていくと、何を危ないと思ったのか、考えを共有することができるだろう。さらに、同じ場所でも、別々の行動をした子供を比較することで、いる所によって危険が変わり、行動も変わることに気づいていくだろう。

本時では、第二時の振り返りから行う。「前回行った中で、一番危ないところは？」と聞くと、児童それぞれの視点で危ないと感じた理由を話し始めるだろう。その中で、自分が気づいていなかった危険を知ったり、同じ危険でも選択した行動の違いがあることに気づくのではないか。

それを踏まえて、単元の総復習として、教室で地震の想定訓練を行う。授業中だけでなく、掃除の時間や、給食の準備時間を行うことで、同じ場所でも、時間によって危険が変わり、行動も変わることに気づいていく。子供たちは、「その時その場所で、どのような行動が正しいのか」が共通材となって、最終的に「地震が起こったらどうするの」の答えを作るだろう。

単元の振り返りで、「時間や場所によって、危ないものが違うから、行動も変わる」といったような答えに辿り着いてほしいと願っている。

８．本時の目標

・時間や場所によって、危険は変わり、行動も変わることに気づく。

他者との関わりと材の変容

９．本時の展開

１．前時の気づきを共有する
- どの場所もいろいろな危なさがあったよ。
- どうすればいいかわからない場所もあったよ。

２．どこが一番危なかったか考える
- 自然観察園は木がたくさんあってとても危なかったよ。
- 図書館は本棚がたくさんあって危なかったな。
- ふれあいギャラリーは机が少なくて頭を守るのが難しいね。
- 場所によって危ないことが違うから、難しいんだな。

３．教室で地震が起こった想定で行動する
- 授業中だと、自分の机の下にすぐ隠れられるね
- 掃除の時間だと、机がないからどうすればいいかわからなかったよ
- 給食の準備時間だと、給食がこぼれるかもしれなくて危ないね

４．地震が起こったらどうするのかまとめる
- 落ちてきたら危ないから頭を守ることが大切。
- 場所によって危ない物が変わるから、どうするかも変わる。

どこが危なかったか考える中で、自分が何に危ないと思ったかによって、さまざまな意見が出て、そのずれが共通材になると考える。
共通材を通して、自分が感じていなかった危険や、行動の選択があれば、学びの深まりがあると言える。

これまで場所によって危なさが違うと知って満足していたが、同じ場所でも時間によって危なさが変わることに気づいていく。

見取り：さまざまな場所での地震を想定した行動を通して、どのような危険があるのかを根拠にして、行動を選択している。

１０．座席表

前							
１７	２２	１８	３０	２９	２７		
８	３	２８	１	２４	２	２１	１０
１３	３２	２５	１９	２６	２３	７	１４
６	１２	１６	１５	３３	３１		
		３４	５	２０	１１	９	

１１．参考文献

○今村和花奈, 2026, 「小学校における安全教育の授業実践に関する先行研究の整理と課題―安全教育の３領域と教材に関する５つの観点からの分析」

○文部科学省, 2023, 「実践的な防災教育の手引き　小学校編」

○大阪教育大学附属池田小学校, 2010, 「安全科論」

○文部科学省,2019,「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」

１２．授業者の思い

安全科は本校独自教科である。学級活動の時間と、生活科、総合的な学習の時間の一部を用いて、年間１５時間で構成されている。そのため、これまで本校の安全科は単元をくまない１時間ごとの学習になっていることが多く、コンテンツありきの学習になることが多かった。しかし、それでは学びの系統性が出ないことから、昨年度、安全科における資質・能力系統表を作成した。今年度はこの系統表をもとにして年間の授業を作成している。

しかし、昨今の世界には安全に関する項目がより多くなっている。今夏には、「第四次学校安全の推進に関する計画の策定について（諮問）」という文書が中央教育審議会から出された。そこには、災害の激甚化、SNS に起因する犯罪被害、クマ等の鳥獣被害の恐れ、などといった近年ニュースでよく聞くワードが、論点として挙げられている。きっと子供たちが大人になる頃にはもっとさまざまな命を脅かす問題が出ているかもしれない。そんな中で、我々が学校教育で教えられることは、一つ一つの事例に対しての対策、行動もそうだが、「安全に関心を持ち、危険に備えるための、汎用的な能力の育成」だと考えている。

本単元で取り上げている「地震」は現代社会を取り巻く課題の一つに過ぎない。「地震を学ぶ」のではなく、「地震から何を学ぶか」が大切である。本単元であれば、地震を通して、「なぜその行動をするのか、何が危険なのかを判断することが大切だ」と言うことを学んでほしいと願っている。この考え方ができれば、常日頃から意識して、危険なものを見ようとし、備えることができるのではないだろうか。

この学びは、本校だけに必要なものではなく、どの学校でも、どの子供にも必要な力であると思っている。この授業が正解というわけではなく、それぞれの教員が、目の前の子供の命を考え、何を伝えていくのか考えてみてほしい。今は年間１５時間が難しくとも、少しの時間からでも伝えていくことはできるだろう。次期教育課程になれば、年間３５時間を各校裁量で運用することができる。その時間を、安全を考え、命を考える時間にぜひ使ってほしい。

【本校安全科で作成している資質・能力表と領域表】

2026年度「安全科」資質・能力表（改訂版）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体性
低学年	日常生活において自分の命を守るために必要な知識・技能を身に付ける。	自分の命を守るために身の回りのことを比較しながら、安全な生活を送る上で必要なことを具体的に想像することができる。	自分の命を守ることができるように、自分の身の回りの安全について考え続けようとしている。
中学年	日常生活において自分と仲間が安全に生活するために必要な知識・技能を身に付ける。	自分の命、仲間の命を守るためにどのようなことが必要かを比較・分類しながら、様々な場面や状況に応じた行動を想定することができる。	自分の身の回りだけでなく、地域との結びつきにも触れながら、自分と仲間の命を守ることができる行動について進んで考え続けようとしている。
高学年	人々が安全・安心に生活できる日常や社会を実現するために必要な知識・技能を身に付ける。	自他の生命を尊重するために、様々な場面や状況を想定した上で、根拠をもって行動を選択することができる。 また、安全・安心な社会づくりのために取り組まれてきたことについて、他者に対して表現することができる。	生涯にわたって自他の生命を尊重する行動について進んで考え続け、安全・安心な社会づくりに参画し、貢献しようとする。

「安全科」実施領域＆内容（例）

【災害安全】
登下校中に
地震が起きたら
（2年生）
防災ミュージアムを
つくろう
（4年生）
災害に備えた日常生活
（6年生）

【交通安全】
登下校の安全
（1年生）
自転車の点検、
ヘルメット着用って
なぜ必要？
（3年生）
自転車の事故の加害者
にならないために
（5年生）

【生活安全】
身の回りにある危険から
身を守れる道具は
どんなもの？
（低学年）
臨海学舎に向けて
（5年）
安全・安心な社会を
つくるために
（6年）

【防犯】
防犯ブザーの使い方
（1年）
暗くなる前に帰るのは
なぜ？（3年）
防犯避難訓練は安
全・安心につながるのか。
（6年）

【現代課題】
個人情報（ID・パスワード）の取り扱い（1年生）
写真を撮る時に気をつけること（3年生）
情報社会～生成AIから考える～（6年）

＊各学年３領域＋αを網羅的に学習しています。